

小林秀雄著『本居宣長』:各章主題の「関係論」的纏め

十四章	①『源氏』[めでたき器物(物:場c')]②『めでたさの秘密』(物:場c')③『其時のならひ』(物:場c')④作家(式部。物:場c')⇒からの関係:⑦が何を置いても語りたかつたのは①の②。即ち「⑤:①の表現(とは、③を自己の内的表現の素材と化した努力)の充實と完璧との力。及び③を吾が物とした④の制作の自由である」(D1の至大化)⇒「⑥:宣長の下心」(⑤的概念F)⇒E:⑥を「これら評釋に讀む事が可能となる」(⑥への距離獲得:Eの至大化)⇒⑦宣長(△粹):①②への適應正常。
十五章	①『源氏物語』(物:場c')②『あはれ』といふ歌語(物:場c')③『あはれ』といふ日常語(物:場c')④開放される姿(物:場c')⇒からの関係:日常生活の心理の動きが活寫(D1の至大化)された①に⑦は「⑤:②が③に向つて④を見た」(D1の至大化)⇒「⑥:日常の用法の真ん中」(⑤的概念F)⇒E:⑥で、この言葉(『あはれ』)の發生にまで逆上りつつ、この言葉の意味を掴み直さうとした。この努力が『源氏』論に一貫してゐる。これを見失へば、⑦の論述は腑抜けになる」(⑥への距離獲得:Eの至大化)⇒⑦宣長(△粹):①への適應正常。
十六章	

(物:場c')

十四章:①『源氏』[めでたき器物(物:場c')]②『めでたさの秘密』(物:場c')③『其時のならひ』(物:場c')④作家(式部。物:場c')

十五章:①『源氏物語』(物:場c')②『あはれ』といふ歌語(物:場c')③『あはれ』といふ日常語(物:場c')④開放される姿(物:場c')

十六章:

からの関係(D1の至大化)

十四章 ⑦が何を置いても語りたかつたのは①の②。即ち「⑤:①の表現(とは、③を自己の内的表現の素材と化した努力)の充實と完璧との力。及び③を吾が物とした④の制作の自由である」(D1の至大化)

十五章 日常生活の心理の動きが活寫(D1の至大化)された①に⑦は「⑤:②が③に向つて④を見た」(D1の至大化)

十六章

F(言葉・概念)...

十四章:「⑥:宣長の下心」(⑤的概念F)
十五章:「⑥:日常の用法の真ん中」(④的概念F)
十六章:

E: [F(言葉・概念)との附き合ひ方・用法]...「so called」Fと(△粹)との距離獲得」(Eの至大化)。

十四章:⑥を「これら評釋に讀む事が可能となる」(⑥への距離獲得:Eの至大化)

十五章:⑥で、この言葉(『あはれ』)の發生にまで逆上りつつ、この言葉の意味を掴み直さうとした。この努力が『源氏』論に一貫してゐる。これを見失へば、⑦の論述は腑抜けになる」(⑥への距離獲得:Eの至大化)

十六章:

(△粹)

十四章:⑦宣長(△粹)
十五章:⑦宣長(△粹)
十六章:

